

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



福輝分教会

昭和3年12月24日 都(大)寿道分教会 設立
昭和26年1月27日 所属変更・改称・移転
昭和26年3月13日 奉告祭

陽気ぐらしを目指して、たすけの輪を広げよう

今一手一つに、一步一步!

- *一教会、初席者一名以上
- *おさづけを身近に
- *百万件のにをいかけ

創立百三十周年記念祭並六代会長就任奉告祭

立教184年(2021年)10月24日 執行

立教183年
11月号

秋季大祭講話

「世界たすけ」の心を

一人ひとりが培おう

大教会長様

立教183年大教会秋季大祭は10月21日、大教会長様祭主のもと役員・部内教会長・布教所長・よぶばく・信者ら多数の参拝のもと執り行われた。

大教会長様は、秋季大祭にあたり、立教の元一日に込められたを、やの思いを振り返り、ひながたをひながた通りに歩むことの意味を掘り下げて話され、教祖にもたれ切り、常に人たすけの心を持つことが大切だと説かれた。要旨は次の通り。

▼これからのお道の歩み

8月27日、表統領先生が直属教会長らを集められ、「これからのお道」ということについて話されました。

コロナ禍で、にをいがけ・おたすけといってもなかなか難しい今現在、しつかりと自分自身を見つめ、心を定め直して、次の教祖150年祭並びに立教

200年という節目に向かって、心一つに合わせて、精一杯たすけ一条の御用のうえに勤めたいと話されました。

それを受けて、大教会として何を思案し、どういう心を定め直してこれからの歩みを進めたらよいか、ということについて今からお話をお取次ぎしたい。

▼心の定め直しを

「自分を見つめ、心を定め直す」には、ただ単に心を定めるのではなく、しつかりと方向を定め、親神様・教祖にお喜びいただけるように、心を定め直さなければ全く意味がありません。本日は秋季大祭ですので、あらためて、立教の元一日に込められたを、やの思いはどこにあったのか、そこからしつかりと思案したい。

▼立教の元一日に込められたを、やの思い

い 天保9年10月26日、

我は元の神・実の神である。この屋敷にいんねんあり。このたび、世界一れつをたすけるために天降った。みきを神のやしろに貰い受けたい。(典第一章)

つまり、「親神様の目的」―「世界一れつをたすけたい」に、この道を始めたきつかけがあると云えます。

簡単に言えば、「陽気ぐらしの世界」―「私たちが人間は、本来は陽気ぐらしするために生まれてきた、陽気ぐらしの世界に立て替えてやりたい―それが「を、やの思い」ではなかったでしょうか。

そして、陽気ぐらしをするためには何が必要か、そういうことを、教祖50年のひながたを通して示されました。そのひながたは、まさしく人たすけの道であり、艱難苦勞の道だったように思います。貧のどん底に落ち切られ、をびやたすけから次々と不思議なたすけを現されてたすけ一条の道を歩まれました。

ひながたの道を通らねばひながた要らん。 明22・11・7

「辿ってほしい」ということで示されたひながたを、私たちは「ひながた通り」通ることが大切だと教えられました。

しかし考えてみれば、時代も大きく変わって来ています。―それこそ天保9年の当時は本当にその日を生きていくのも難しい方々も大変多かった。

江戸時代は、今は大きく違いました。その後、また大きく時代が変わって明治・大正になり、大きな戦争が起こり、戦後の苦しい時代があり、バブルの時代があり・・・、そのような形で、時代は大きく変わってきました。

▼ひながた通り歩めるか

ですから「ひながた通り」と聞いていても、まさしくひながた通り、そのままを、私たちは通ることができません。

当時は物も無いのも当たり前前の時代、今は逆に物があふれている、貧に落ち切ろうと思ってもなかなか落ち切ることができない時代です。

それこそ、飛行機もあれば携帯電話もあるという状況の中で、「ひながた通りに通れと言われても、正直、通ることができない」と若い人たちは言います。―確かにその通りで、ひながた通れと言われても、ひながたをそのまま通ることはできません。

▼ひながたの心の部分は真似できる

私は、ひながたには二面性があると考えます。それは何かと言うと、先ほど申した「ひながた通り」は「形の部

分」、つまり「かりもの世界」。もう一つは「心の部分」です。

確かに「かりもの世界」はその時代に応じた通り方があったでしょうが、形は真似ができません。

でも「心一つが我がの理」であって、心一つの理に体があり、自然の働きがあつて、この世界というものをお借りして私たちは生きています。

つまり、ひながたには「かりもの理の部分」と「心の理の部分」があり、「かりもの理の部分」がひながた通りに通ることができなくても、「心の部分」は通ることができると思うのです。

「心の部分」は何かというと、まさしく「世界一れつたすけたい」というをやの心そのままの心、つまりたすけ一条の心——この「心の部分」は、時代がどう変わろうが、私たちは通ることができるといふことです。

あらためて「ひながた通り通ること」の意味を考えるなら、「形の部分・かりもの世界の部分」はその通りにはできないが、「心の部分」はひながた通り通ることができるといふこと。私たち信仰する者お互いは、まず、これをしっかりと心において、たすけ一条・人

たすけの道を歩みたい。

何のために信仰しているのかと考えるても、我が身・我が家のための信仰もあるけれども、信仰することによって陽気ぐらしの世界に立て替える、人のために信仰するという思いをしつかり心に定めることがまず第一ではないでしょうか。

▼初代が通った道の「心の部分」を真似する

更に、「月日のやしろである教祖だからひながたを通ることができた。」と言う方もいます。とするなら、ひながたをそのまま通ることはできなくても、私たちそれぞれの道の初代・代々の「通り方・その思い」は、真似することはできるのではないのでしょうか。また初代が通った道そのままを真似はできなくても、「初代のその心」は、間違いなく真似ができます。

初代が通った道の「心の部分」はどうだったか、あらためて考えてみると、やはりたすけられたことがきっかけだった。——無い命をたすけられた。ご恩報せねばと思うと、教祖から「人さんたすけなされや」と人たすけこそがご恩報じの道だと教えられた。少

しても人たすけの道を歩みたい。——そんな思いだったのでしょうか。

しかし、たすけられたことがきっかけだったのは確かだとしても、ただ単に教祖から「人たすけしなさい」と言われたからしたのか。——もう少し深く考えてみると、たすけられたから、身上がたすかったから、いんねんがなくなつた、とは思えなかつたと思う。

なぜなら、——それまでに、神様のお話を諄々と取り次がれている。かしもの・かりもの、心一つが我がの理、心一つにかりもの体があり、身上に苦しむのも心次第、ということも聞いている。身上が良くなつたからといって、心が変わったのか。——心が変わっていないとするなら、いんねんも当然切れていない、ということにも思い当たつただろうから。

▼教祖にもたれ切るといふ安心感を持っているか

教祖から「人さんたすけなされや」と言われ、ご恩報じしたいと思つた。ご恩報じのための人たすけではなく、ご恩報じの道・人たすけの道を通つたら、教祖が、間違いなく、我が家・我が身のいんねんを切るのみならず、世

界を陽気ぐらしへと導かれる。だからこのたすけ一条の道を通らねば。——そんな初代の思いがあつたのではないのでしょうか。

そして、たすけ一条の道さえ通つていけば、間違いなく教祖は、いんねんを切つて、陽気ぐらしの世界へと立て替えられるという、なんとも言えない強い安心感、教祖にもたれ切るといふ心、安心感が、そこにはあつたと思えます。だからこそ、安心してたすけ一条の道を歩むことができた。

たすけの道さえ歩むなら、当然、必ずいんねんを切つて、陽気ぐらしの世界に立て替えられるという安心感があつたからこそ、にをいがかろうがかかるまいが、安心してにをいがけもできたでしょうし、おたすけがあらまいが安心しておたすけができたのではないのでしょうか。そこになんとない安心感があつた。

私たちは常々お道を通る中に、たすけ一条の御用をする中に、教祖にもたれ切る安心感を果たして持っているかと考えると、この旬にこそ、そのことをしっかりと心におかねばならないと思えます。

▼教祖を感じる事ができるか

すると、若い人たちは、「教祖にもたれ切る安心感と言われても、教祖のお姿を見たこともない」と言います。それはそうです。教祖のお姿がそこにあるわけではなく、「信じる」しかない。

しかし、あらためて考えてみると、初代会長が笠岡に帰ってきたのが明治19年6月、御供ごきょうから始まって初めての信者ができたのも明治19年6月末、それからポツポツと20年までに40名足らずの方が信仰するようになった。教祖が御身を隠されたのは明治20年旧1月26日。ということは、笠岡の道が付き始めてから教祖が御身を隠されるまでは、本当にわずかな間です。

その間に何人がおちびに帰ったか。初代会長は教祖にお目通りしています。初代会長にたすけられた人々がどれだけ教祖にお目通りしたか？—皆無です。ですから、当然、初代会長の時代も、教祖のお姿は拝していません。ということ、私たちの初代の時代から、時代がいくら変わろうが、「教祖存命」ということがしつかり心に治まれば、何も見えなくとも「信じる」

ことはできるといふことです。

初代はそうだった。教祖のお姿を拝していなくても、おたすけに歩めば歩むほど「ああ！教祖がいてくださるんだ。」ということを感じひしひしと感じることができたのです。

だから、「見えないから信じられない」というのは、これは違います。おたすけをしないから見えない。おたすけさえすれば教祖を感じることはできる。実際におたすけをすれば「ああ、教祖が働いてくださる。」という場面が度々あると思います。

また、おたすけしてもおたすけがあらぬ、にをいがけしてもにをいがからぬ、一生懸命ひのきしんをしても、教会の御用をしても…という方もいるかもしれない。でも、そういうことをしていくその場では目に見えなくても、他のところで教祖のお働きを感じることは多々あると思う。

ということは、教祖は「姿が見えないから信じない」ではなくて、私たちにたすけ心があれば、教祖を感じる事ができるのです。

▼常に人たすけの心を持つことが大切

不思議なご守護が見えなくても、お

たすけがあがらなくても、身上にならなくても、たすけ心をもって日々おたすけの道を歩みさえすれば、教祖を感じることはできる。

「たすけ、一条」と言いますが、パンフレットを持ってにをいがけをするとか、おさづけを一回でも多く取り次ぐことは大事なことです。心一つが我がの理ことわりですから、日々の通り方の中で人たすけの心を常に持ち続けること、これが大事です。その心さえあれば、「あそこで困っている人がいる、たすけてあげよう」という気持ちになります。

明治19年、初代会長が笠岡に帰ってから一番最初のおたすけは、身上に困っている親戚の人にあたすかかってもらいたいというところから始まった。身近なところからおたすけが始まったのであつて、全く知らない人におたすけに行つたわけではない。ただ常々におたすけの心を持つことが大切なのです。

皆様方は、御供ごきょうは何のためにしますか？「ご守護いたたくためですか？家内安全のためですか？—これは、初代の方、代々の先生方のことを考えてみれば、みな自分のために御供してません。人のたすかりのために、「ああ、

あの人にこの人にあたすかしてもらいたい。」と、皆たすけ心で、人たすけの理作りのために御供をしている。私たちもそうしませんか？自分のためではなく、「ああ、このわずかな御供でも教祖がたすけ、一条で働いてくださる、陽気ぐらしの世界に立て替えてくださる、御供させて頂きたい。」と、たすけ心で御供できませんか。

ひのきしん一つ、「かしの・かりもの・ありがたい。また、おたすけのうえに教祖が働いてくださる。陽気ぐらしに導いてくださる。はーありがたい。教会の御用して、ああ、教祖が働いてくださる。教祖が陽気ぐらしへと導いてくださる。ありがたいなあ。」そんな心になれるのではないだろうか。

▼世界一れつをたすけたいというをやの心を一人ひとりの心遣いに

人をたすける心を持ち続けることがいかに大事か、そのことを教えてくれたのが、「世界一れつをたすけたい」というをやの心ではなかったのか、あらためて思索したい。「世界一れつをたすけたい」というその心は、「親神様の心だ」ではなくて、「私たち一人ひとりの心遣い」でなくてはなりません。

ん。

しっかりと「見つめ直す」なら、「心を定め直す」なら、「さあ、これから人たすけの心で毎日通ります。」と、心をしつかりと定め直して、明日から新たに成人の歩みを進めたいと思う次第です。

先代が歩めなかった道を、今、私たちは歩むことができます。インターネットで、簡単に地球の裏側の人の顔を見ながら話せますから、

どこでもお話を取り次ぐことができるかと考えると、先代が通れなかった道を私たちは歩むことができる。どうかたすけ心を持つていただきたい。

今、コロナ禍を通して親神様が急きこまれていくのも、人々のたすけ心そのものです。テレビでも「人々がたすけ合うことが大事」と伝えていきます。お道の人間が率先してたすけ心の大切さを人々に伝えましょう。

《以上、要約》

大教会庭木 剪定ひのきしん実施 管理部

管理部(虫明立生部長は、11月5日・

6日・7日午前9時から大教会の庭木剪定、草刈りなど3日間延べ約50人でのきしんを行った。

初日は客庭の草刈りを中心に作業を進め、同時に松・サツキ・ツツジと池

の周りの木々を仕上げていった。呼び掛けていた3日間では到底大教会敷地内全ての剪定・草刈りは無理なので前に迎える正月を焦点に判断しながらの作業となった。

2日目・3日目は特に目に付く入口参道両脇と乱れ石垣上下に配植したツツジの剪定、また周辺の草刈りなど片付け、焼却作業も含め一応の区切りとさせて頂いた。

管理部では大教会創立記念祭に向けての作業課題が山積しており、年が明けてからは青年会と相談しながら日々ちの調整をしてひのきしんを行いたいと思いますので、少しの間でも皆様方にはご協力下さいます様よろしくお願い致します。

(管理部長 虫明立生)



各所に分かれ、剪定・草刈り等の作業を分担した

秋の発表会 開催

笠岡むつみ
鼓笛隊



渾身の演奏、演技を披露



会場を盛り上げたダンス



力を出しきって最高の笑顔



髪型も衣装もバッチリで～す



卒業生から涙ながらのメッセージ

笠岡むつみ鼓笛隊(責任者 上原繁次)は、10月18日、大教会講堂で「秋の発表会」を開催した。
 今年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3月より鼓笛活動も中止を余儀なくされ、更には、鼓笛活動の頂点である夏の「こどもおちばがえり」も中止となった。それに伴い、今年

発表の場が無くなり、特に中学3年生にとっては、集大成の場が失われた。このような状況から、何とか発表の場を設けたいとの同隊の思いで、「秋の発表会」の開催に至った。
 当日は、大教会奥様、明勇様、愛美様を始め、保護者や家族連れなどおよそ40人が観覧した。
 ステージでは、まず今年のこどもおちばがえりまでの歩みをまとめたDVDが上映された。続いて、隊員が『全力少年』を合唱し、伸びのある歌声が

響いた。その後、「岡山教区鼓笛フェスティバル(2月開催)」の様子と、「YouTubeみちのこチャンネル」にリモート出演した様子の映像が上映された。
 次に、隊員が、ダンスと『Sea Loves You』の演奏演技を披露。会場の盛り上がりは、最高潮に達した。
 そしてこの日最後に、卒業式が開催された。まず、中学3年生に向けた、隊員、スタッフからのメッセージDVDが流され、その後、卒業生3人が舞

台上に上がった。3人は、鼓笛活動を通して友達の絆を得た事、演奏やダンスを通して学校でも活躍できた事、本当はこどもおちばがえりで最後を飾りたかった事、隊員やスタッフへの感謝の言葉などを、涙で声を詰まらせながら語った。
 この日、会場は大きな感動に包まれると共に、鼓笛を通しての育成活動の重要性を強く感じる1日となった。

立教百八十三年 秋季大祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめ				地 方			役割 区分	講 話	扨 者		祭 主	
									てをどり	大教会	上原	上原	高木	杉原	佐藤			上原	中村		大教会
上原順子	今川智子	虫明好美	上原浩	田中隆之	岡崎真一	吉岡壽	谷内伸自	杉原善朗	田中ますみ	上原愛美	大教会奥様	上原繁道	上原明勇	大教会長様	高木昭祥	杉原博之	佐藤道孝	大教会長様	大教会長様		
岡崎豊子	吉岡八恵	佐藤香苗	赤木素志	虫明立生	浅野明教	吉岡誠一郎	森本忠善	中島誠治	室悦子	横山小智榮	武内正美	横山逸郎	中村道徳	中村剛	佐藤真孝	岡崎真一	門脇元教	大教会長様	大教会長様		
中村初美	三島照美	笹尾一美	上原繁次	三代温生	内海史郎	門脇元教	杉原善朗	岡田誠	田中つかさ	岡崎和美	谷内美知子	山野弘実	三島隆之	田中隆之	渡邊昌彦	今川昌彦	上原志郎	高木昭祥	高木昭祥		
															大教会長様	十二月講話	指 図 方	賛 者	上原繁道	渡邊隆夫	高木昭祥

冬季中の祭典及び立教184年年頭会議について

◎冬季中の祭典について

コロナ禍対策として、3密(密閉・密集・密接)を避けるため、冬季中の祭典日も、神殿周辺の障子・窓等をすべて開放し、参拝場内に暖房を用意しませんので、膝掛けなどの寒さ対策を充分に取って、ご参拝ください。

当日は、『かさおか』先月号に掲載の、次の申し合わせ事項を厳守ください。

- ①大教会に来会時は、手指を消毒、必ずマスクを着用。
健康状態に異常(発熱等)がある方は来会をご遠慮ください。
- ②いずれの場所でも、ソーシャルディスタンスに配慮し、神殿内では1畳に1人ずつ(シールの貼ってあるところに)座って参拝。

◎年頭会議について

立教184年年頭会議は、例年通り、1月20日午後2時より開催します。
「冬季中の祭典」同様に対処しますので、寒さ対策を充分に取って、ご参加ください。

※例年、会議後に開催している恒例の会食は中止します。

秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には「月日にわにんけんはじめかけたのわ よふきゆさんがみたいゆへから」と紋型無いところから道具を寄せこの世と人間をお創造はじめになり心と身体のお許し下されてお育て下さいました 以来親心のままに温かくお見守り下され陽気ぐらしが出来るようにとご守護下さっております しかるに心の使い方を誤り陽気ぐらしから遠ざかっているのをあわれと思召され「月日にハセかいぢう、ハみなわが子たすけたいとの心ばかりで」と教祖を月日のやしろとお定めになり 五十年の長きに亘ってひながたをお示し下されるばかりでなく 教祖御身お隠しなされて後も存命のまま今もこれからもたすけ一條にお働き下さいます事は 誠に有り難く勿体ない極みでございます 身上事情を通してこの道にお引き寄せ頂き 陽気ぐらし建設のよふぼくとならせて頂いた私共は 日々朝夕に御礼申し上げますと共に ご存命の教祖に凭れ安心してたすけ一條に邁進させて頂いております

その中にも今月二十六日は立教の元一日に当たり おぢばでは秋の大祭が執り行われますので その理に倣い当大教会でも今日の吉日に秋の大祭を執り行わせて頂きます 只今からおつとめ奉仕人一同 立教の元一日に思いを馳せ喜び感謝の心一杯に明るく陽気に勇んで坐りつとめてをどりをつとめさせて頂きます 又御前には理に繋がるよふぼく信者が 今日の日を楽しみに寄り集い同じ思いに伏し拝み 言改めて日頃のご高恩に御礼申し上げますをご覧下さいまして 親神様にお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月は大祭月に当たり直轄教会に大祭参拝をさせて頂きました 立教に込められた「世界一列を助けたい」との親の思いをお示し頂いた「ひながた」に込められた「たすけ一條」のお心に焦点を絞り互いに思案をすると共に私達の信仰の指針となる 初代を始め先輩の方達が生涯掛けて歩まれたその思いを継承し 教祖が助けて下さり陽気暮らしに導いて下さると信じ 安心してたすけ一條に邁進する事を誓い合わせて頂きました

何卒親様には 現在お見せ頂いているコロナ禍の事情を通して より深く信仰を求め かしものかりものの喜びを胸にたすけ一條に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上にも尚一層自由のご守護を賜り たすけの輪が一人ひとりと確実に広がって 欲を忘れて助け合う陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお願いの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます



自転車に乗って郵便局へ行く。向こうから車が来る。今までは平気だった。自転車をこぎながら、すれ違った。余裕だった。

いつの頃からか、車が来ると身体が緊張して横揺れするようになった。今は道の左に寄って、車の行き過ぎるのを待っている。後ろから車の音がすれば止まって通り過ぎたら自転車をこぎ出す。歩行道の有り難さをしみじみ感じる。嗚呼！ 若い時はサイクリングクラブのリーダーだったのに…。しかし今は、昔のこと。

6人の可愛い孫の成長を楽しみに長生きしなければ…。

小1の孫が小学校のサッカークラブに入った。入って一ヶ月、早くも練習試合出場！（1年生は交代に出場）唯、ボールに向かって走るだけ。目指せ！将来の久保タケ